

# USB-AUDIO INTERFACE UW10

CD-ROMのバージョンアップにともなう追加情報

付属CD-ROMに関する記述の訂正

「動作環境」の訂正

OMSのインストール方法  
(Macintoshユーザー用)

UW10のご使用例

**(NOTE)** UW10取扱説明書とこの冊子で説明しているソフトウェアは、付属CD-ROMの「Japanese」フォルダの中にあります。

## 付属CD-ROMに関する記述の訂正

以下の項目について訂正します。

### ■TWEplus (Windows版)の日本語表示

付属CD-ROMのTWEplus (Window版)のメニューやボタンの名称は日本語表示です。UW10取扱説明書に掲載されているTWEplusの画面イラストや、本文中の説明は英語表記になっています。

### ■プレイヤーズ王国サウンドエンコーダーの削除

UW10取扱説明書の10、34および35ページにプレイヤーズ王国サウンドエンコーダーの記載がありますが、付属CD-ROMには含まれていません。ご了承ください。

### ■ASIOドライバの追加

付属CD-ROMには、ASIOドライバ「YAMAHA UW10 ASIO Driver」が入っています。

ASIOドライバは、ASIOに対応したアプリケーションを使用するときにお使いください。インストール方法は、「ASIOdrv\_」フォルダの ReadMe.html をご覧ください。

**(NOTE)** TWEplus は ASIO に対応しておりません。

## 「動作環境」の訂正

UW10取扱説明書10ページ「動作環境」全体の記述を、以下のとおり訂正します。

**(NOTE)** OSによっては下記以上の条件を満たす必要があります。

### ■ Windowsの場合

- ・対応コンピュータ: USB端子を装備したIBM PC/AT並びにその完全な互換機
- ・対応OS: Windows® 98/98SE/2000/Me/XP
- ・CPU: 500MHz以上のIntel® Pentium®/Celeron® ファミリーのプロセッサ (Windows® XPの場合は同ファミリープロセッサ750MHz以上推奨)
- ・メモリ: 64MB以上 (128MB以上推奨)
- ・ハードディスク空き容量: 10MB以上 (Acrobat Readerとミッドラジオカラオケプレーヤーは除く)

### ■ Macintoshの場合

- ・対応コンピュータ: USB端子を装備したMacintosh コンピュータ

**(NOTE)** ただし、一部のiMacについては、アップルコンピュータ社が提供する「iMac アップデート1.1」をインストールする必要があります。このプログラムでは、USBソフトウェアの改良が行なわれています。詳細については、アップルコンピュータ社のホームページ (<http://www.apple.co.jp/>) などをご覧ください。

**(NOTE)** 一部のMacintosh コンピュータ(主に2000年夏以降に発売されたモデル)では、録音時にノイズがのることが確認されています。対策として、以下の方法を推奨しております。  
・ネットワークにLANで接続している場合は、LANケーブルを接続したままにします。  
・モデムを使用またはネットワークに接続していない場合は、コントロールパネルの「TCP/IP」の経由先を「PPP」に設定します。  
最新の情報については、以下のヤマハのホームページの製品情報やFAQをご覧ください。  
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>

- ・対応OS: MacOS 9.04以上9.2.2まで含む (MacOS XおよびClassic環境は含まず)
- ・メモリ: 64MB以上 (128MB以上推奨)

**(NOTE)** ただし、仮想メモリは「切」にしてください。

- ・ハードディスク空き容量: 10MB以上 (Acrobat ReaderとMidRadio Playerは除く)

## OMSのインストール方法 (Macintoshユーザー用)

S-YXG50をインストールするとOpen Music System(OMS)が自動的にインストールされます。

OMSをインストールすると、Mac OS上で複数の音楽アプリケーション(MIDIデータ)を使用できます。コンピュータにすでにOMSがインストールされている場合は再インストールする必要はありません。

### ■ OMSのセットアップ手順

1. 「XGplayer for Mac」フォルダ内にある「SYXGセットアップ」アイコンをダブルクリックします。自動的にOMS Setupが起動し、SYXGセットアップのウィンドウが開きます。

**(NOTE)** Apple TalkがOnの場合は、警告のダイアログが出ます。「Turn It Off」をクリックしてください。この場合、OMS Setup終了時に、自動的にApple TalkがOnになります。なお、Apple Talkの切り替えには時間がかかります。

**(NOTE)** 「SYXGセットアップを探してください」のメッセージが表示された場合は、「SYXGセットアップ」を選択して「開く」をクリックしてください。

2. [ファイル]メニューの[セットアップを有効にする]を選びます。これでXG音源用のセットアップが、現在のスタジオセットアップとして登録されます。

**(NOTE)** 「SYXGセットアップ」がすでに有効になっている場合には、メニューに[セットアップを有効にする]の項目は表示されません。次の手順に移ってください。

3. [ファイル]メニューの[終了]でOMS Setupを終了します。

**(NOTE)** XGplayerは、OMSの2.0より古いバージョン(1.X)には対応しておりません。

**(NOTE)** すでにOMSをお使いの場合は他のセットアップが有効になっていると考えられますので、添付の「SYXGセットアップ」を開き、SYXGのセットアップとして有効にするか、OMSドライバの検索を行ない、SXG Driverを登録してください。これらの操作の詳細については、OMSのユーザーマニュアルをご覧ください。

### ■ OMSポートの設定

OMSが正しくセットアップされたら、XGplayerを起動し、OMSポートを設定します。

1. 「XGplayer for Mac」フォルダ内にあるXGplayerのアイコンをダブルクリックしてXGplayerを起動します。

**(NOTE)** Apple TalkがOnの場合は、警告のダイアログが出ます。「Turn It Off」をクリックしてください。この場合、XGplayer終了時に、自動的にApple TalkがOnになります。なお、Apple Talkの切り替えには時間がかかります。

2. XGplayerの[MIDI]メニュー→[OMSポート設定]を開き、ポートを設定します。以下は音源にS-YXG50を使用し、OMSのセットアップにS-YXG50用セットアップを使用した場合の例です。



**(NOTE)** ソフトシンセサイザーを使用する場合は[MIDI]メニュー→[OMS MIDI Setup]で「バックグラウンドでMIDI使用」を必ずチェックしてください。

MIDI Out A~Eのポートは、それぞれ1ポートにつき音源の1ブロック(16パート分)をコントロールできます。

外部音源をお使いの場合、音源のパート数に応じて、MIDI Out B~Eを選択し「出力する」をチェックすると17パート以上の出力ができます。対応していないポートは「出力する」をチェックしないでください。

3. [OK]をクリックして「OMSポート設定」を閉じます。

4. [ファイル]メニューの[終了]でXGplayerを終了します。

**(NOTE)** コンピュータで複数のオーディオファイル(曲)を連続再生して、UW10のDIGITAL OUT端子の出力を録音するとき、お使いの再生ソフトウェアや録音機器の種類によっては、曲間や2曲目以降の最初の部分を正しく録音できないことがあります。その場合は、UW10のOUTPUT端子のアナログ出力を録音されることをおすすめします。

# UW10のご使用例

❗ ハードディスクには十分な空き容量を用意してください。容量が不足していると録音ができない場合がございます。

・以下の説明で、メニューやボタンの名称や画面のイラストなどは、特に記述がない場合はWindows版のものです。  
Macintosh版とは異なりますので、ご注意ください。

## アナログレコードやカセットテープの内容を コンピュータにデジタル録音する

### 1 UW10の準備

- 1-1. UW10をコンピュータに接続します。
- 1-2. UW10のINPUT端子と、録音するAV機器の出力端子をオーディオケーブルで接続します。  
**(NOTE)** AV機器の出力端子にはAUX OUT端子、外部出力端子、ヘッドフォン端子などがあります。ヘッドフォン端子の出力を使うと録音レベルを大きくできます。

- 1-3. UW10のSOURCE SELECTスイッチを「INPUT」に設定します。



### 2 TWEplusの起動

- 2-1. TWEplusを起動します。  
「フォルダーの参照」ダイアログが開きます。
- 2-2. ハードディスク上の作業場所となるフォルダを選択して、[OK]をクリックします。  
**(NOTE)** 通常は現在選択されている場所から変更する必要はありません。

### 3 新規ファイルの設定

- 3-1. [ファイル]メニュー→[新規作成..]を選択します。  
「新規作成」ダイアログが開きます。
- 3-2. ファイルフォーマットを設定します。  
通常は音楽CDに対応した「WAVE 44100Hz 16bit ステレオ」を設定します。  
**(NOTE)** 初期設定ではこのフォーマットが選択されています。
- 3-3. [長さ]の[時間指定]を指定します。録音しようとするレコードやカセットテープの片面の長さに少し余裕を持った長さにします。  
たとえば、60分テープの場合は「32分 0秒 0 ミリ秒」のようにします。
- 3-4. [新規作成]ボタン (Windows版) または [OK] ボタン (Macintosh版) をクリックして、[新規作成]ダイアログを閉じます。

### 4 デジタル録音の実行

- 4-1. [オプション]メニュー→[オーディオ入出力設定]の[入力]と[出力]で、「YAMAHA UW10」または「USBオーディオ デバイス」を選択します。  
**(NOTE)** Macintoshの場合は自動的に設定されます。
- 4-2. TWEplusの録音ボタン  をクリックしたあと、すぐにレコードやカセットテープの再生をはじめます。
- 4-3. 片面の再生が終了したら、TWEplusの停止ボタン  をクリックします。  
**(NOTE)** 録音レベルが小さい場合には、ヘッドフォン端子の出力を録音するか、録音後にノーマライズ機能を使って音量を上げてください。

## デジタル録音したデータを1曲ごとに切り出す

### 1 録音されたデータの波形から、1曲分を矢印ツールで選択します。



### 2 Windowsの場合

[編集]メニュー→[選択範囲を新規ウインドウで開く]を選択します。  
選択された部分が、1曲の新たなファイルとして開かれます。

### Macintoshの場合

[Edit]メニュー→[Copy]を選択した後に、  
[File]メニュー→[New...]を選択します。  
そのままOKをクリックすると空のファイルが表示されるので、  
[Edit]メニュー→[Paste]をクリックします。  
コピーした1曲分のデータが表示されます。

- 3 [ファイル]メニュー→[名前を付けて保存...]を選択して、ハードディスクの任意の場所に保存します。  
これで1曲が1つのデータとしてコンピュータに保存されました。  
このあと、切り出したい曲の数だけ、手順1～3を繰り返します。

## MIDIデータをオーディオデータとしてデジタル録音する

**(NOTE)** Macintoshの場合は、UW10取扱説明書27ページをご覧ください。

### 1 UW10の準備

- 1-1. UW10とコンピュータを接続します。
- 1-2. UW10のSOURCE SELECTスイッチを「TRACK DOWN」に設定します。

### 2 ソフトシンセサイザーS-YXG50の起動

- 2-1. ソフトシンセサイザーS-YXG50を起動します。  
**(NOTE)** ソフトシンセサイザーS-YXG50を起動するには、[スタート]メニュー→[すべてのプログラム]→[YAMAHA XG SoftSynthesizer S-YXG50]→[XGplayer]を選択します。
- 2-2. XGplayerの[Set]ボタンをクリックします。
- 2-3. 「YAMAHA SXG Driver」を選択して[OK]をクリックします。
- 2-4. XG Playerのプレーヤー画面にある選曲ボタンをクリックし、オーディオデータに変換したいMIDIデータを再生リストに追加します。  
**(NOTE)** ここで一度再生して、UW10から音が出るかどうかを確認されることをおすすめします。



### 3 TWEplusの起動

- 3-1. TWEplusを起動します。  
「フォルダーの参照」ダイアログが開きます。
- 3-2. ハードディスク上の作業場所となるフォルダを選択して、[OK]をクリックします。  
**(NOTE)** 通常は、現在選択されている場所から変更する必要はありません。

### 4 新規ファイルの設定

- 4-1. [ファイル]メニュー→[新規作成]を選択します。  
「新規作成」ダイアログが開きます。
- 4-2. ファイルフォーマットを設定します。  
音楽CDに対応した「WAVE 44100Hz 16bit ステレオ」を設定します。
- 4-3. [長さ]の[時間指定]を指定します。  
録音しようとするMIDIデータ全体の長さに少し余裕を持った長さを指定します。たとえば、5分の曲が3曲ある場合は「16分 0秒 0ミリ秒」と指定します。
- 4-4. [新規作成]ボタン (Windows版) または [OK] ボタン (Macintosh版) をクリックします。

### 5 デジタル録音の実行

- 5-1. [オプション]メニュー→[オーディオ入出力設定]の[入力]と[出力]で、「YAMAHA UW10」または「USBオーディオデバイス」を選択します。  
**(NOTE)** Macintoshの場合は自動的に設定されます。
- 5-2. TWEplusの録音ボタン  をクリックしたあとに、すぐにXGPlayerの画面に切り替えて再生ボタンをクリックします。
- 5-3. XGPlayerの再生が終了したら、TWEplusの停止ボタン  をクリックします。

## デジタル録音した曲 を音楽CDとして保存

- 1 お使いのCDライティングソフトを起動します。
- 2 1曲ごとのファイルを音楽CDとして保存します。

保存方法はお使いのCDライティングソフトの  
説明書をご覧ください。

ヤマハ株式会社

M.D.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation  
© 2003 Yamaha Corporation  
304AP-01A0 Printed in China